

2023年12月22日
産業調査部

商工中金景況調査

2023年11月調査結果(定例分)



人を思う。未来を思う。

商工中金

1. 目的・調査事項	<ul style="list-style-type: none">●目的 中小企業の、景況感をはじめとする実態のタイムリーな把握●調査事項<ul style="list-style-type: none">(1) 景況感 今月及び先行き(2) 業況判断（売上、販売価格、仕入価格、雇用状況、生産・営業用設備、資金繰り）今月及び先行き(3) トピックス（中小企業の賃上げの動向について） ※トピックス調査分（【速報版】中小企業の賃上げの動向について）は本調査と同日に公表
2. 回答期間・調査頻度	<ul style="list-style-type: none">●回答期間 2023年11月17日～12月4日●調査頻度 概ね四半期毎（初回調査：2020年2月）
3. 対象企業	商工中金の取引先中小・中堅企業
4. 企業数	有効回答数 2,230社 （アンケート依頼数 3,777社、回答率 59.0%）
5. 調査方法	インターネットによる直接回答
■ ご照会先	商工中金 産業調査部 高澤（たかさわ） TEL：080-7005-3663

調査回答企業の属性（業種別）

		回答企業数	構成比(%)			回答企業数	構成比(%)
製造業		1,038	46.5	非製造業		1,192	53.5
	食料品	119	5.3		建設業	67	3.0
	化学	80	3.6		卸売業	343	15.4
	鉄・非鉄	72	3.2		小売業	191	8.6
	印刷業	56	2.5		運輸業	330	14.8
	金属製品	175	7.8		飲食・宿泊	100	4.5
	はん用、生産用、業務用機械	147	6.6		情報通信業	30	1.3
	電気機器	77	3.5		その他非製造業	131	5.9
	輸送用機器	123	5.5				
	その他製造業	189	8.5				
全産業						2,230	100

(注)各項目の構成比の合計は、四捨五入の関係で100%とならない場合がある（以降頁同様）

調査回答企業の属性（地域別）

地域		回答企業数	構成比(%)	地域	回答企業数	構成比(%)
	北海道	56	2.5	北陸	87	3.9
	東北	170	7.6	近畿	360	16.1
	関東	681	30.5	中国	182	8.2
	甲信越	139	6.2	四国	77	3.5
	東海	227	10.2	九州・沖縄	251	11.3
全地域					2,230	100

(注)各項目の構成比の合計は、四捨五入の関係で100%とならない場合がある

地域区分：東北（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）、関東（茨城、栃木、群馬、東京、埼玉、千葉、神奈川）、甲信越（山梨、長野、新潟）、東海（静岡、愛知、三重、岐阜）、北陸（富山、石川、福井）、近畿（大阪、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山）、中国（鳥取、島根、岡山、広島、山口）、四国（香川、徳島、愛媛、高知）、九州・沖縄（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）

1. 景況感

～景況感は製造業を中心に改善し、
指数は調査開始以来最高の53.9

<2023年11月の景況感>

景況感は製造業を中心に改善し、指数は2020年の調査開始以来最高の53.9

今月の景況判断指数（全産業）は53.9

（前回比+3.3ポイント）

先行きの景況判断指数は50.8

（今月比-3.1ポイント）

□ 11月・・「好転」20.8%、「不変」66.2%
「悪化」13.0%

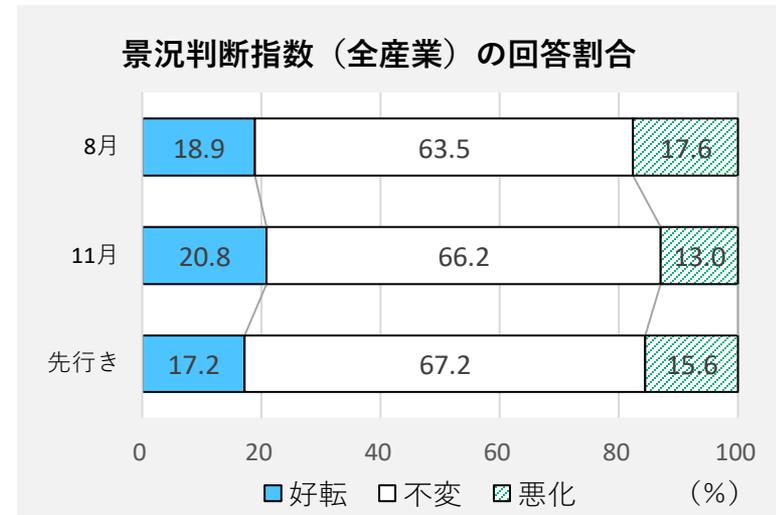
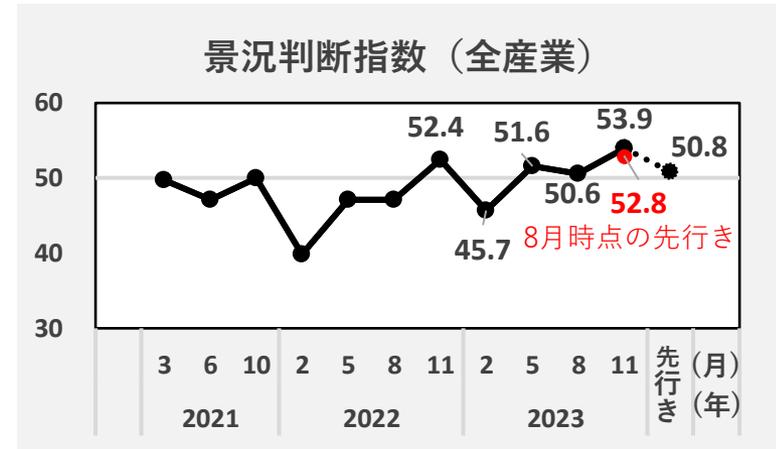
□ 先行き・・「好転」17.2%、「不変」67.2%
「悪化」15.6%

注1) 景況判断指数の算出式

景況判断指数 = ((好転企業数 × 1 + 不変企業数 × 0.5 + 悪化企業数 × 0) ÷ 当該設問への回答企業数) × 100

指数が50を上回っていれば調査対象企業群の景況判断が概ね1~3か月前と比べて好転したことを表し、50を下回っていれば景況判断が概ね1~3か月前と比べて悪化したことを表す。50が中立となる。指数の範囲0.0 ≦ 景況判断指数 ≦ 100.0

注2) 景況判断は、「今月（概ね1~3か月前と比べて）」につき3つの選択肢 = 「1.好転」「2.不変」「3.悪化」から選択。「先行き（向こう3か月程度の見通し）」についても同様。



<2023年11月の景況感>

製造業の指数は全業種で上昇。非製造業も多くの業種でさらに上昇

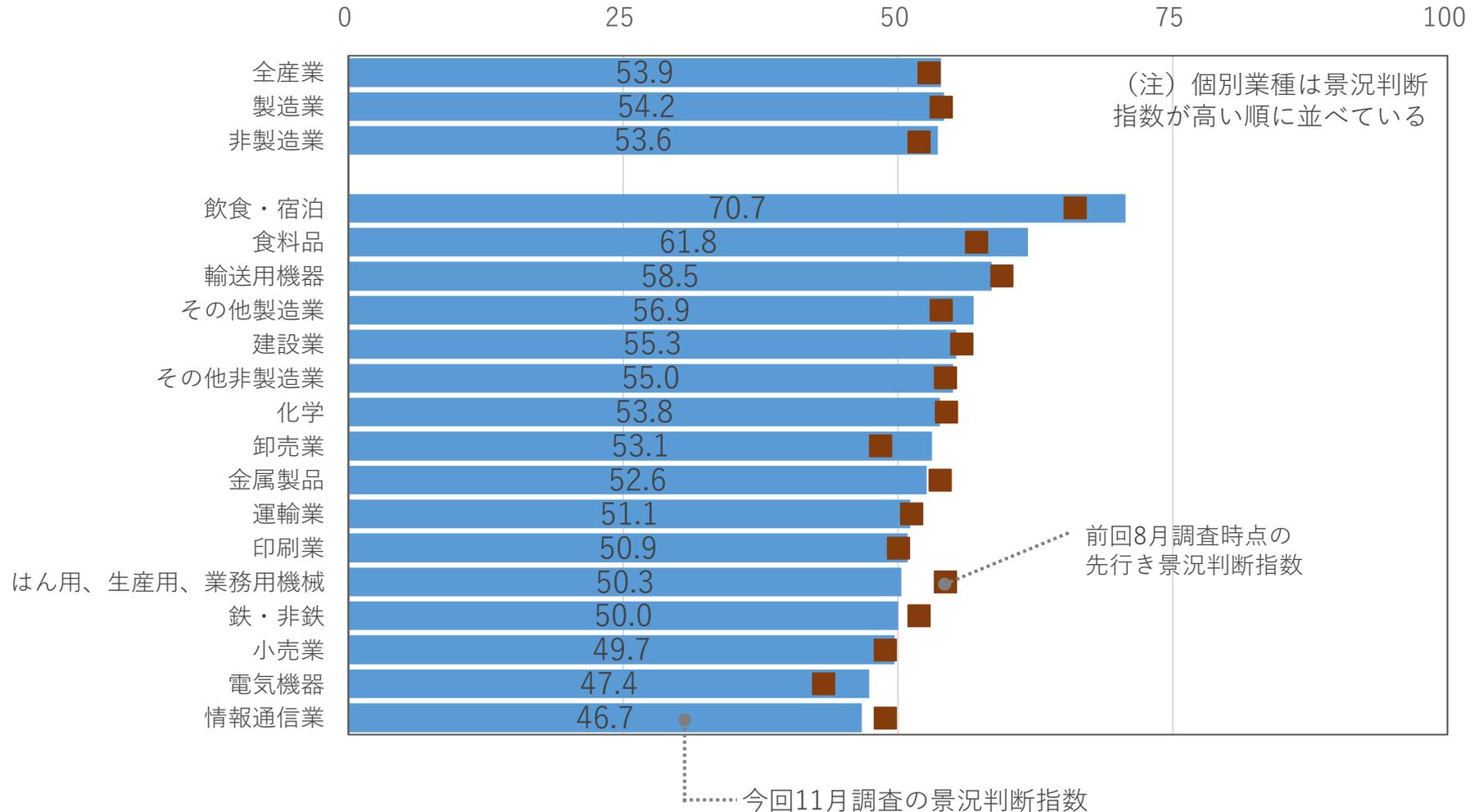
業種名	8月	11月 [8月時点の先行き]	(11月－8月)	先行き	回答数 (11月)
全産業	50.6	53.9 [52.8]	+3.3	50.8	(2,224)
製造業	48.5	54.2 [53.9]	+5.7	50.5	(1,036)
非製造業	52.4	53.6 [51.9]	+1.2	51.0	(1,188)
食料品	58.6	61.8 [57.1]	+3.2	56.7	(119)
化学	48.8	53.8 [54.4]	+5.0	48.1	(80)
鉄・非鉄	38.9	50.0 [51.9]	+11.1	42.4	(72)
印刷業	44.9	50.9 [50.0]	+6.0	54.5	(56)
金属製品	46.2	52.6 [53.8]	+6.4	49.1	(174)
はん用、生産用、業務用機械	46.0	50.3 [54.3]	+4.3	48.3	(147)
電気機器	37.7	47.4 [43.2]	+9.7	51.3	(77)
輸送用機器	54.7	58.5 [59.4]	+3.8	52.9	(123)
その他製造業	50.2	56.9 [53.9]	+6.7	50.8	(188)
建設業	53.9	55.3 [55.8]	+1.4	54.6	(66)
卸売業	48.6	53.1 [48.4]	+4.5	49.9	(343)
小売業	49.3	49.7 [48.8]	+0.4	49.7	(190)
運輸業	50.9	51.1 [51.2]	+0.2	50.3	(329)
飲食・宿泊	78.6	70.7 [66.1]	-7.9	60.1	(99)
情報通信業	45.1	46.7 [48.8]	+1.6	46.7	(30)
その他非製造業	51.6	55.0 [54.3]	+3.4	50.0	(131)

(注) その他製造業は 紙・パルプ、繊維、窯業・土石、木材・木製品を含む。その他非製造業は 不動産・物品賃貸業、サービス業を含む。

<2023年11月の景況感(前回8月調査時点の先行きとの比較)>

全産業の指数は、前回調査時点の先行きをやや上回った

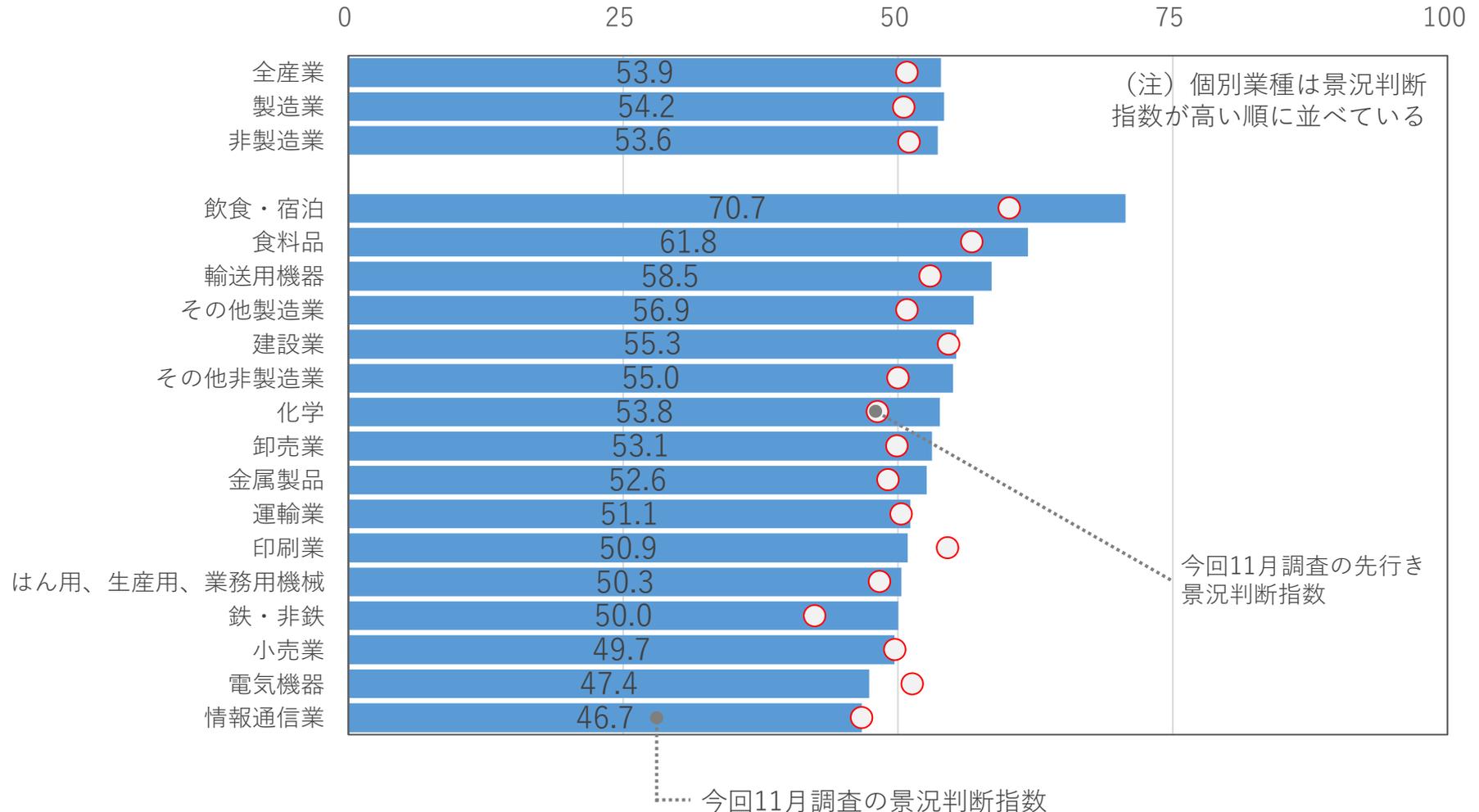
■ 前回8月調査時点の先行き景況判断指数との比較



<2023年11月の景況感（今回調査の先行きとの比較）>

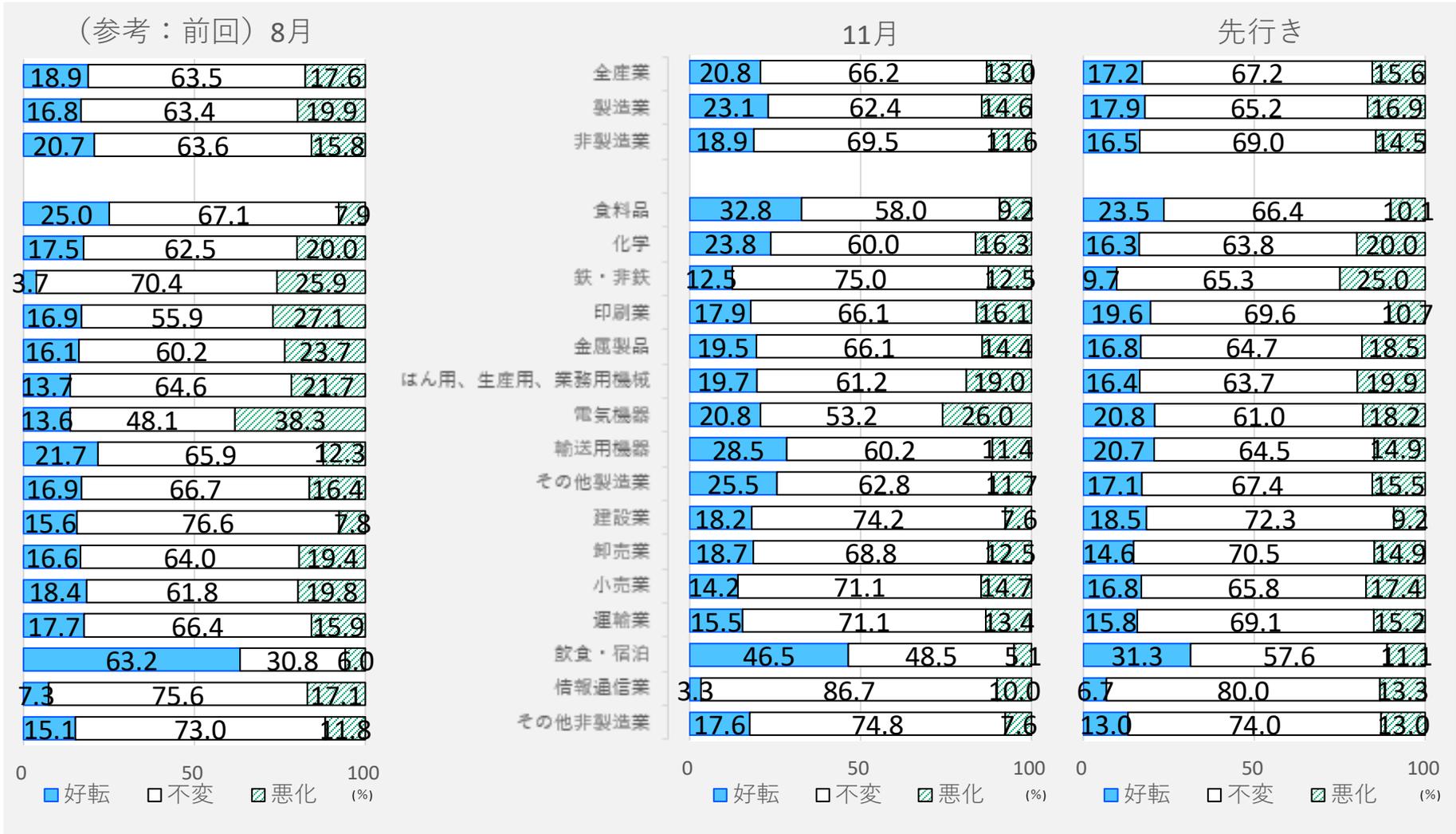
多くの業種で先行き指数は低下の見込みながら、全体では「好転」超を維持

■今回11月調査の先行き景況判断指数との比較



< 2023年11月の景況感（業種別の回答構成比） >

全産業の「悪化」の回答割合は調査開始以来最低



<2023年11月の景況感(地域別の景況感)> 調査開始以来初の全地域「好転」超となった

地域名	8月	11月 [8月時点の先行き]	(11月-8月)	先行き	回答数(11月)	構成比 (%)	
						製造業	非製造業
全国	50.6	53.9 [52.8]	+3.3	50.8	(2,224)	46.5	53.5
北海道	60.3	59.8 [55.6]	-0.5	57.3	(56)	26.8	73.2
東北	49.7	51.8 [50.8]	+2.1	46.4	(169)	32.4	67.6
関東	49.9	54.4 [53.1]	+4.5	50.6	(678)	48.9	51.1
甲信越	47.2	50.4 [51.6]	+3.2	48.2	(139)	59.0	41.0
東海	50.8	53.7 [55.3]	+2.9	50.4	(227)	60.4	39.6
北陸	50.5	56.9 [53.2]	+6.4	50.6	(87)	49.4	50.6
近畿	50.4	53.2 [52.2]	+2.8	49.0	(359)	52.2	47.8
中国	52.0	56.0 [52.3]	+4.0	54.7	(182)	38.5	61.5
四国	51.8	52.6 [48.2]	+0.8	55.2	(77)	35.1	64.9
九州・沖縄	52.0	53.6 [53.4]	+1.6	53.0	(250)	35.1	64.9

(注) 全国ベースで調査対象企業の抽出を行っているため、地域ごとの業種構成は考慮していない。
そのため、各地域間の比較や、全国と各地域を比較する際は注意を要する。

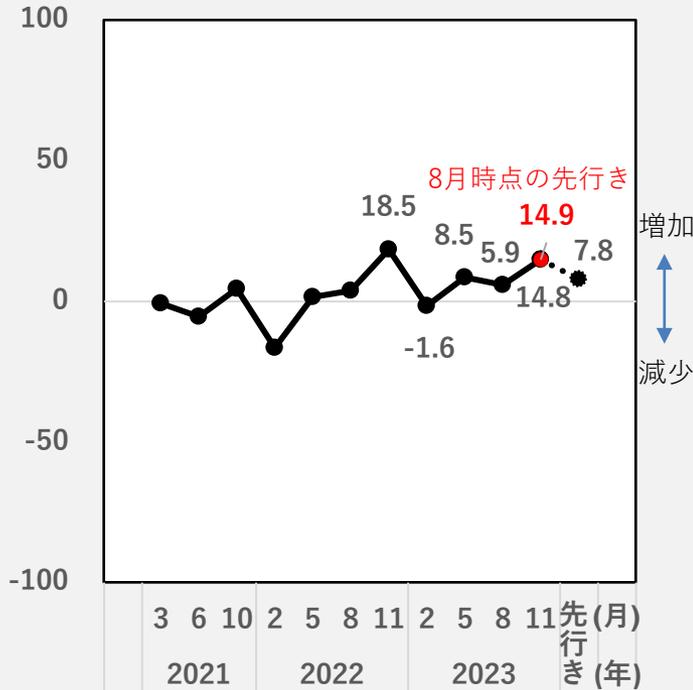
2. 業況判断

～【雇用状況】「不足」超幅はさらに拡大し、
調査開始以来最高

<2023年11月の業況判断>

【売上】 製造業の大幅改善に加え、非製造業もさらに改善

売上DI (全産業)



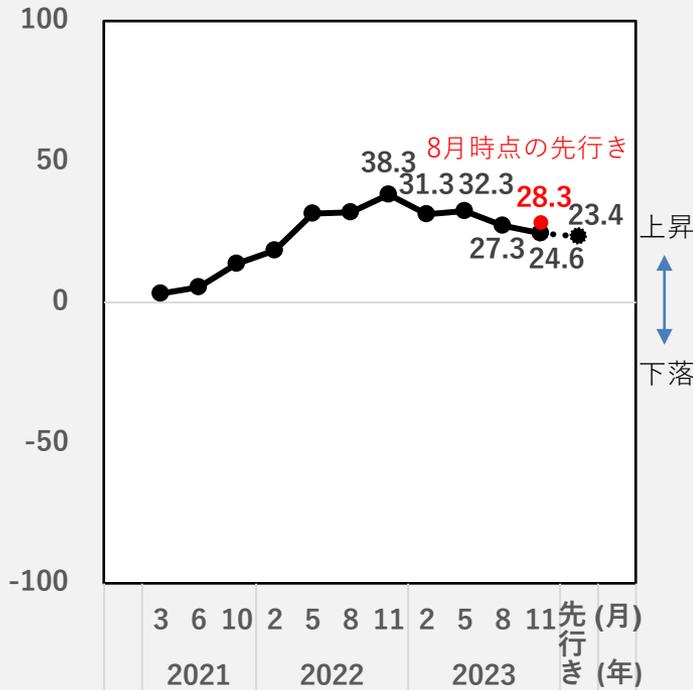
	23年8月	23年11月 [8月時点の先行き]	先行き
全産業	5.9	14.8 [14.9]	7.8
製造業	0.2	13.8 [15.4]	3.7
非製造業	10.6	15.6 [14.5]	11.4
食料品	35.3	30.3 [28.1]	16.9
化学	▲ 6.3	15.0 [21.5]	▲ 3.8
鉄・非鉄	▲ 20.7	5.6 [7.3]	▲ 13.9
印刷業	▲ 1.7	17.9 [23.7]	10.9
金属製品	1.6	10.9 [12.5]	▲ 0.6
はん用、生産用、業務用機械	▲ 12.5	4.8 [8.1]	5.4
電気機器	▲ 21.0	▲ 9.1 [▲ 7.4]	1.3
輸送用機器	5.1	14.6 [21.7]	6.5
その他製造業	1.5	23.4 [18.4]	4.8
建設業	13.2	16.7 [13.0]	13.6
卸売業	1.6	14.6 [6.0]	7.9
小売業	16.0	7.9 [16.1]	14.3
運輸業	5.9	14.2 [17.5]	12.1
飲食・宿泊	59.3	42.0 [36.4]	21.0
情報通信業	▲ 9.8	▲ 3.3 [▲ 2.4]	6.7
その他非製造業	3.9	16.9 [14.5]	6.9

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年11月の業況判断>

【販売価格】 「上昇」 超幅は緩やかに縮小

販売価格DI (全産業)



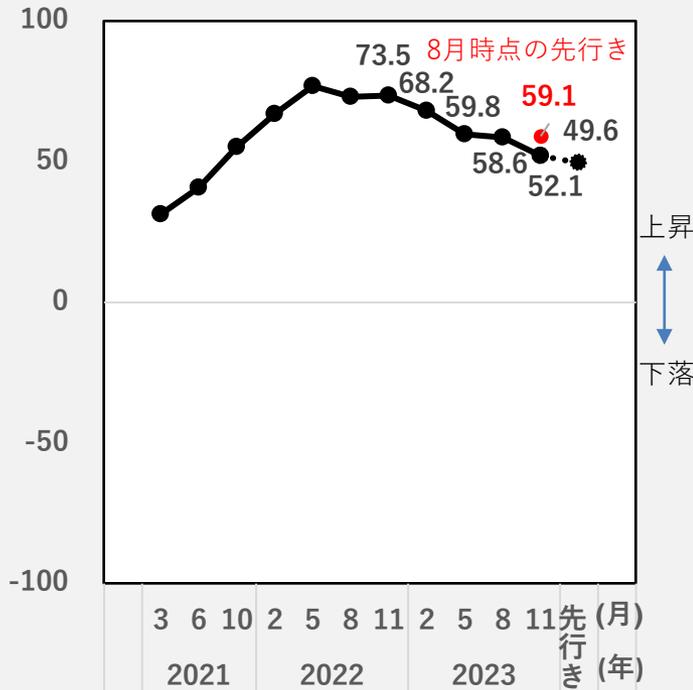
	23年8月	23年11月 [8月時点の先行き]	先行き
全産業	27.3	24.6 [28.3]	23.4
製造業	23.5	21.7 [26.2]	20.2
非製造業	30.4	27.2 [30.1]	26.2
食料品	36.2	39.5 [47.1]	28.6
化学	21.5	16.3 [21.5]	13.8
鉄・非鉄	9.8	15.3 [8.6]	4.2
印刷業	28.8	25.0 [33.9]	28.6
金属製品	22.0	18.0 [18.9]	17.3
はん用、生産用、業務用機械	19.5	15.6 [27.2]	21.8
電気機器	15.0	22.1 [23.5]	22.1
輸送用機器	22.2	13.8 [24.3]	17.1
その他製造業	28.2	27.1 [26.6]	23.9
建設業	18.7	21.2 [18.7]	27.3
卸売業	32.9	30.6 [31.2]	24.8
小売業	53.6	31.9 [54.3]	36.2
運輸業	14.9	19.6 [20.6]	23.3
飲食・宿泊	58.1	42.4 [40.2]	25.5
情報通信業	17.5	13.3 [17.1]	17.2
その他非製造業	18.7	24.6 [19.3]	25.0

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年11月の業況判断>

【仕入価格】 「上昇」 超幅は依然高水準ではあるものの、縮小が続く

仕入価格DI (全産業)



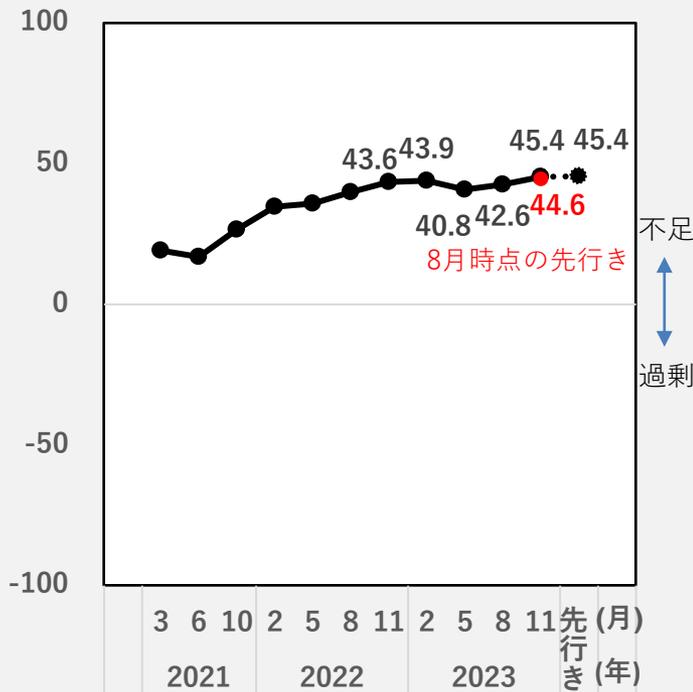
	23年8月	23年11月 [8月時点の先行き]	先行き
全産業	58.6	52.1 [59.1]	49.6
製造業	51.1	47.6 [52.7]	44.2
非製造業	64.7	56.0 [64.5]	54.4
食料品	64.5	61.2 [67.9]	56.8
化学	51.9	56.3 [46.8]	43.0
鉄・非鉄	19.5	23.6 [17.1]	25.0
印刷業	67.8	62.5 [76.3]	60.7
金属製品	44.6	40.1 [47.6]	39.3
はん用、生産用、業務用機械	58.1	51.7 [58.8]	45.2
電気機器	55.6	53.2 [56.8]	51.9
輸送用機器	52.2	39.0 [45.7]	36.6
その他製造業	47.6	47.3 [55.3]	44.7
建設業	68.8	70.1 [62.3]	70.1
卸売業	53.8	48.4 [54.0]	42.7
小売業	64.0	48.4 [65.7]	51.1
運輸業	75.4	59.0 [76.6]	62.0
飲食・宿泊	82.2	77.6 [77.1]	65.3
情報通信業	51.2	56.7 [51.2]	50.0
その他非製造業	54.4	55.8 [53.0]	55.5

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年11月の業況判断>

【雇用状況】 「不足」 超幅はさらに拡大し、調査開始以来最高

雇用状況DI (全産業)

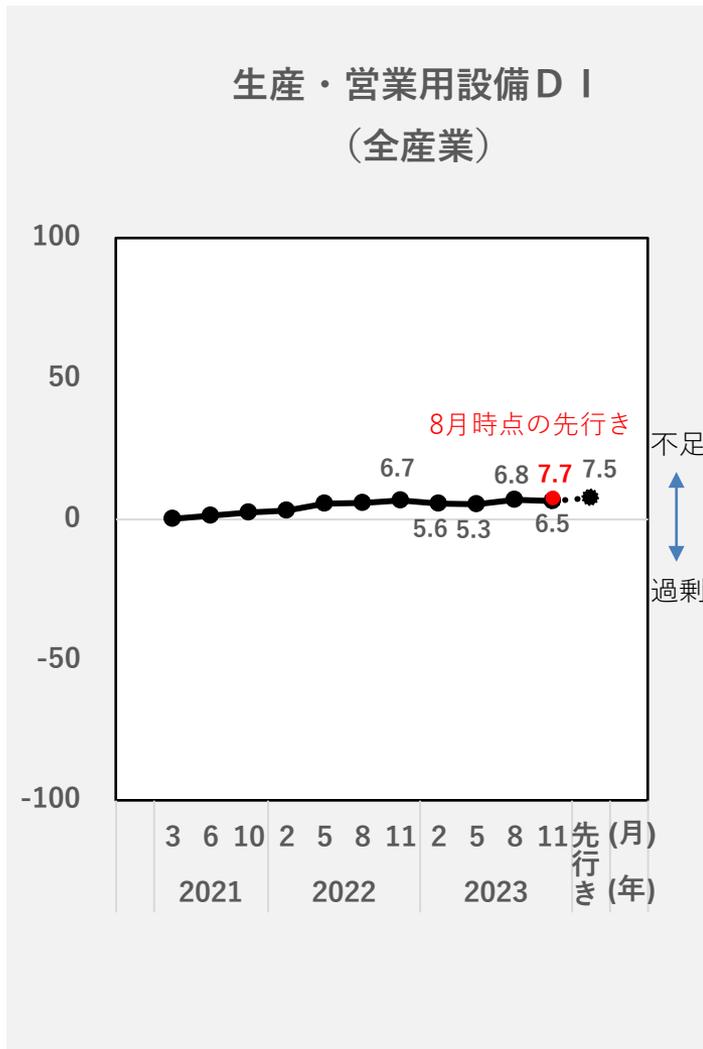


	23年8月	23年11月 [8月時点の先行き]	先行き
全産業	42.6	45.4 [44.6]	45.4
製造業	31.7	33.1 [33.6]	33.9
非製造業	51.5	56.2 [53.7]	55.5
食料品	41.1	46.2 [44.3]	42.0
化学	34.2	47.5 [40.5]	46.3
鉄・非鉄	32.9	31.9 [34.6]	32.4
印刷業	18.6	26.8 [28.8]	21.4
金属製品	30.6	35.8 [33.7]	43.6
はん用、生産用、業務用機械	26.9	36.1 [28.8]	31.3
電気機器	12.5	7.8 [11.1]	14.3
輸送用機器	38.4	27.6 [36.2]	32.8
その他製造業	35.4	30.3 [35.4]	29.8
建設業	61.0	62.7 [62.3]	62.7
卸売業	31.9	40.0 [35.3]	38.5
小売業	57.8	59.0 [62.2]	61.7
運輸業	60.6	66.0 [59.9]	66.0
飲食・宿泊	73.7	76.8 [75.4]	70.7
情報通信業	41.5	50.0 [48.8]	43.3
その他非製造業	50.0	51.9 [52.6]	51.9

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年11月の業況判断>

【生産・営業用設備】小幅の「不足」超が続く



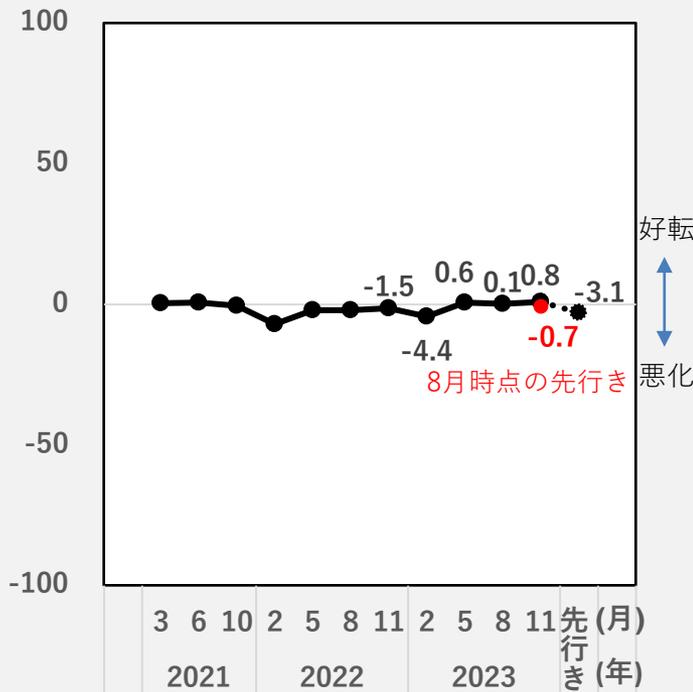
	23年8月	23年11月 [8月時点の先行き]	先行き
全産業	6.8	6.5 [7.7]	7.5
製造業	3.5	2.5 [5.2]	3.9
非製造業	9.6	10.1 [9.8]	10.8
食料品	8.6	13.6 [11.4]	13.6
化学	3.8	6.3 [10.3]	6.3
鉄・非鉄	6.1	1.4 [6.3]	0.0
印刷業	▲ 3.4	1.8 [▲1.7]	1.8
金属製品	2.2	4.0 [4.9]	6.4
はん用、生産用、業務用機械	3.1	2.0 [5.7]	3.4
電気機器	0.0	▲ 11.7 [3.7]	▲ 5.2
輸送用機器	▲ 2.2	▲ 2.4 [▲0.7]	▲ 0.8
その他製造業	7.4	2.7 [4.9]	3.7
建設業	▲ 2.6	1.5 [▲2.6]	0.0
卸売業	8.5	5.9 [9.1]	7.6
小売業	4.8	9.7 [5.8]	10.9
運輸業	17.0	15.4 [17.8]	18.2
飲食・宿泊	18.3	11.6 [14.8]	7.4
情報通信業	▲ 4.9	3.3 [▲4.9]	3.3
その他非製造業	4.0	13.1 [3.3]	10.1

(DIの定義は資料末尾に記載)

<2023年11月の業況判断>

【資金繰り】小幅の「好転」超だが、業種別にみるとまちまち

資金繰りDI (全産業)



	23年8月	23年11月 [8月時点の先行き]	先行き
全産業	0.1	0.8 [▲0.7]	▲ 3.1
製造業	▲ 2.2	0.0 [▲2.9]	▲ 4.8
非製造業	2.0	1.4 [1.1]	▲ 1.6
食料品	4.3	9.2 [1.4]	▲ 0.8
化学	▲ 6.3	0.0 [▲8.9]	▲ 2.5
鉄・非鉄	▲ 7.3	▲ 1.4 [▲2.4]	▲ 5.6
印刷業	▲ 6.8	▲ 3.6 [▲3.4]	▲ 1.8
金属製品	▲ 1.6	▲ 1.1 [▲3.3]	▲ 5.7
はん用、生産用、業務用機械	▲ 3.8	▲ 5.4 [▲3.8]	▲ 8.2
電気機器	▲ 7.4	▲ 11.7 [▲8.6]	▲ 13.0
輸送用機器	2.2	3.3 [0.7]	0.0
その他製造業	▲ 2.0	3.8 [▲2.9]	▲ 5.3
建設業	0.0	6.1 [2.6]	4.5
卸売業	1.0	3.2 [▲0.8]	▲ 1.2
小売業	3.3	▲ 3.7 [3.3]	▲ 4.3
運輸業	▲ 1.3	▲ 1.5 [▲1.8]	▲ 3.1
飲食・宿泊	20.5	12.1 [11.1]	1.0
情報通信業	▲ 4.9	▲ 3.3 [▲2.4]	3.3
その他非製造業	0.0	2.3 [2.6]	▲ 1.5

(DIの定義は資料末尾に記載)

(参考) 業況判断DIの定義

業況判断	<p>各項目の「今月」および「先行き」について、下記3つの選択肢（1.~3.）の中から、調査対象企業自身の業況についての判断（業況感）に該当するものを選択する</p>
DIの算出方法 (Diffusion Index の略)	<p>①売上…「1.増加」「2.不変」「3.減少」 ②販売価格…「1.上昇」「2.不変」「3.下落」 ③仕入価格…「1.上昇」「2.不変」「3.下落」 ④雇用状況…「1.不足」「2.適正」「3.過剰」 ⑤生産・営業用設備…「1.不足」「2.適正」「3.過剰」 ⑥資金繰り…「1.好転」「2.不変」「3.悪化」</p> <p>業況判断DI = 「1.」 - 「3.」の企業割合（%） DIの範囲▲100.0 ≦ 業況判断DI ≦ 100.0</p> <p>②販売価格、③仕入価格、⑥資金繰りは「今月」はおおむね1~3か月前と比べて、「先行き」は今月と比べた向こう3か月程度の見通しについて、それぞれ選択肢から選んで回答。</p> <p>④雇用状況、⑤生産・営業用設備は、調査対象企業が「適正」と考えている水準を基準として、「今月」と「先行き」の状況を、それぞれ選択肢から選んで回答。</p>

<2023年11月の景況感・業況判断>

景況感・業況判断に関連する自由記載から

【順調な行楽シーズン】

夏場は猛暑の影響で人出が少なかったが、秋になり天候にも恵まれ人出が増加し、各店舗とも売上が順調に推移(食料品)

【産業別受注動向】

EVやHEV等の電動車向け部品の受注は好調に推移しているが、それ以外の自動車やトラック、工作機械や産業機器は落ち込んでいる(金属製品)

【印刷業の構造的問題】

取引先の紙離れが深刻であり、今までの商品レパートリーでは話も聞いてもらえない。新事業としてチャレンジしている求人関連の仕事は顧客の反応が良いので、ここを突破口としたい(印刷業)

【コスト上昇を許容する動き】

以前コスト上昇による予算超過で見送られた案件が、ここにきて形を変えて発注されてきている。ただ、エンドユーザーである素材産業の中国向け輸出が停滞しており、今年度末の収支は悪化を予測している(はん用、生産用、業務用機械)

【設備投資案件の減少懸念】

量産品の受注は比較的安定しているものの、得意先の業界によってばらつきがある。設備関連製品については新規案件の情報が少なく、先行きは不透明(化学)

【産業別受注動向・人手不足】

足元で自動車メーカーが好調なので、弊社としては引き合いが弱い分野を自動車向けでカバーしている。しかしながら 同業他社や取引先の中には雇用調整のため休業を始めたところもあり、業界全体としては厳しい。エンドユーザーの在庫調整により、向こう半年は悪い状況が続くのではないと思われる。また、雇用難は大手でも起こっており、大手の内製から弊社へ応援要請が来るなど、人手不足による特需も発生している。弊社も雇用難なので、就業規則の改定や製造現場の改善、省力化のための設備投資を数年計画で実施し、よりよい労働環境を整備していく。これらの原資は、製品の値上げにて対応する(鉄・非鉄)

※文意を損なわない範囲で一部記載を変更している
(見出しは商工中金にて適宜作成)。

<2023年11月の景況感・業況判断>

景況感・業況判断に関連する自由記載から

【電気機器の長引く不況と今後の復調の可能性】

仕入部品の価格高騰と長納期が未だに厳しい。現在は投資を抑制している販売先も多いが、**今後は増収を見込める案件も出始めている**(電気機器)

【好調が続く自動車産業】

今年に入ってから売上・資金繰りとも好調であり、**2024年3月までは確実に好況を維持できる**。その後についても、大幅な悪化はないと予想している(輸送用機器)

【建設業の景況感】

足元は繁忙期に突入し業績は好調だが、**大型案件が進行しているため、支出が大きく先行している**(建設業)

【地方小売業者の生き残り策】

コロナ禍の不況からは脱したように感じるが、観光業界のように一気に上向くといったほどではない。**少子化や購入チャネルの多様化、都市部からの大手の参入等、弊社を取り巻く環境はより一層厳しくなっている**。少ないパイを多くの事業者で取り合う図式の中で生き残っていくためには、**自社独自の魅力を発信し続ける必要がある**(小売業)

【半導体関連の需要回復は後ろ倒し】

医療向けの受注は順調だが、**半導体関連は減少あるいは計画が後ろ倒ししており、今後一年くらいは見通しをつけにくい**(電気機器)

【中国向け自動車販売動向】

自動車販売台数は全体としては増加しているが、中国向けは同国メーカーのEVに押されて減少している。今後の生産への影響を注視している(輸送用機器)

【消費者の価格選好の強まり】

販売価格の上昇につれて、より加工度合が低く工賃の安いもの、グラム単価で**安いものを消費者が求めるようになってきている**と感じる。パレスチナ問題もあり、原材料相場は高止まりもしくは上昇すると考えると、今後も同様の傾向が続くと思われる(その他製造業)

【半導体需要は底打ち?】

半導体関連の回復が遅れているが、**底は脱したように感じる**(その他製造業)

※文意を損なわない範囲で一部記載を変更している
(見出しは商工中金にて適宜作成)。

<2023年11月の景況感・業況判断>

景況感・業況判断に関連する自由記載から

【荷主側から見た2024年問題への懸念】

2024年問題といわれる、物流業界の残業規制による物流コストの上昇や配送日数の増加が不安(卸売業)

【業績回復と価格転嫁】

酒類食品卸売業である弊社は、昨年までのコロナ禍による消費減退から抜け出して、年初から売上高は回復基調にある。ただし、仕入価格の上昇に比して販売価格は思うように上げられていない(卸売業)

【価格転嫁による顧客離れ防止の工夫】

展示会を各地で開催しており、販売は順調。一方、レンタル事業が若干苦戦している。機械全般の仕入価格が上昇しており、10月からレンタル単価を引き上げた。顧客に受け入れてもらうため、営業担当者から丁寧な説明を行いつつ、顧客に資する提案を行うことで、取引を継続できている(その他非製造業)

【インボイス制度開始に伴う不安】

現状、インボイス発行事業者でも国税庁の用例通りに発行している者は少ない。仕入税額控除全額否認の事例を見ると、極めて不安を感じる。従業員の立替経費や仕入の請求書などのルールについて、注力して整理する必要がある(その他非製造業)

【人流回復によりバス事業者の景況感も改善】

人の動きが着実に戻ってきており、コロナ前には届かないが、売上は増加基調にある。しかしながら、燃料をはじめとする諸物価の上昇により収益性は厳しさを増している。また、乗務員不足による機会損失も顕在化しており、2024年問題による乗務員の総労働時間の短縮を危惧している(運輸業)

【物流活発化への期待と2024年問題への不安】

配送エリアでの大手半導体業者の工場新設に伴い、機械製品を扱う荷主の稼働が活発化し、ひいては我々物流業界の輸送量も上昇してくるものと考えられる。一方、2024年問題による労働時間の短縮等で人手不足がさらに深刻化するおそれがある。これからは、人材を適正に確保できる企業が生き残る時代になると予想している(運輸業)

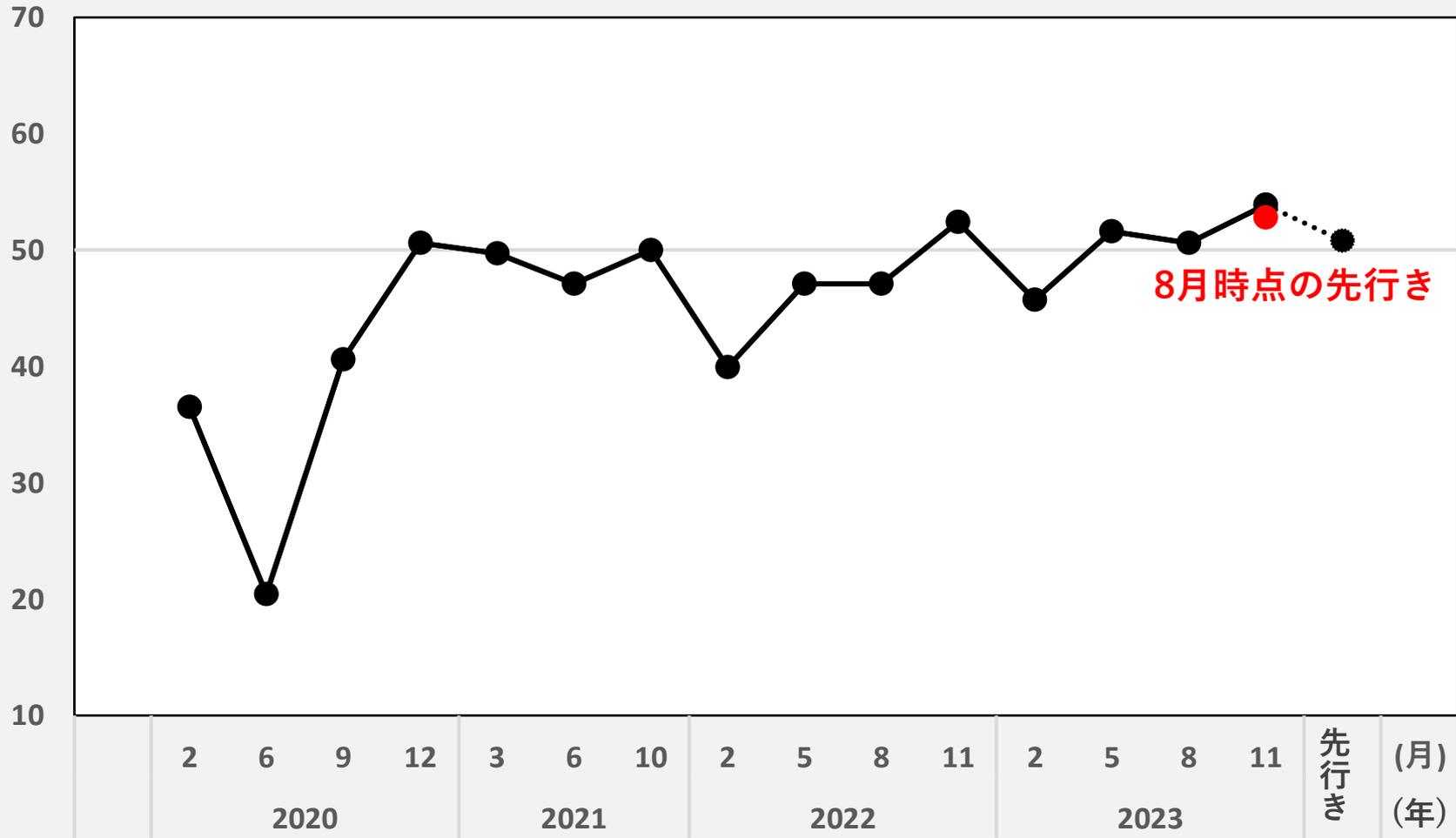
【宿泊業は好調が続く】

コロナ禍が終息したことで旅行需要が増し、さらに円安効果でインバウンドも追い風を受け、売上増加につながっている(飲食・宿泊)

※文意を損なわない範囲で一部記載を変更している
(見出しは商工中金にて適宜作成)。

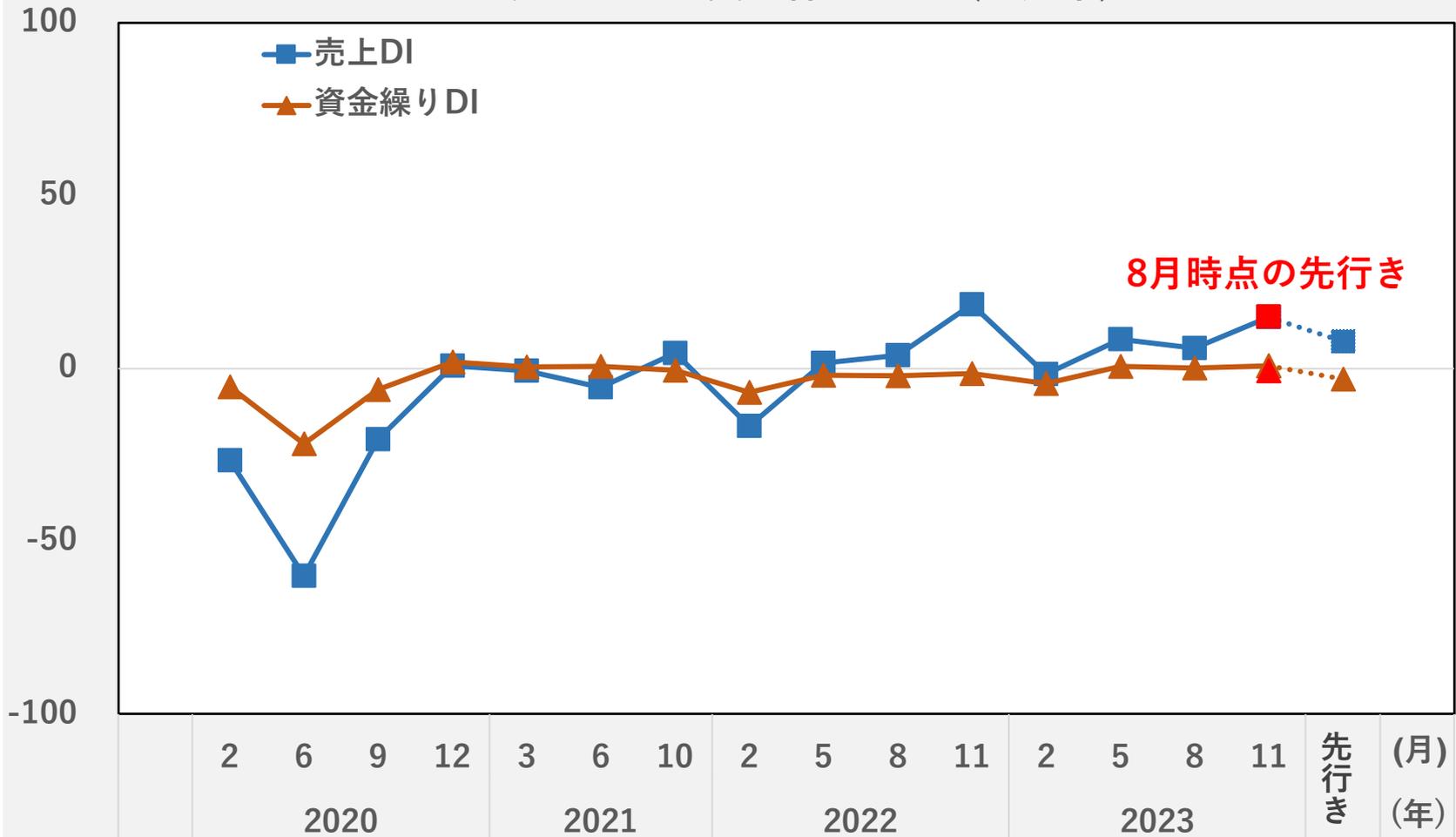
(参考) 第1回調査からの長期時系列推移 (景況判断指数)

景況判断指数 (全産業)



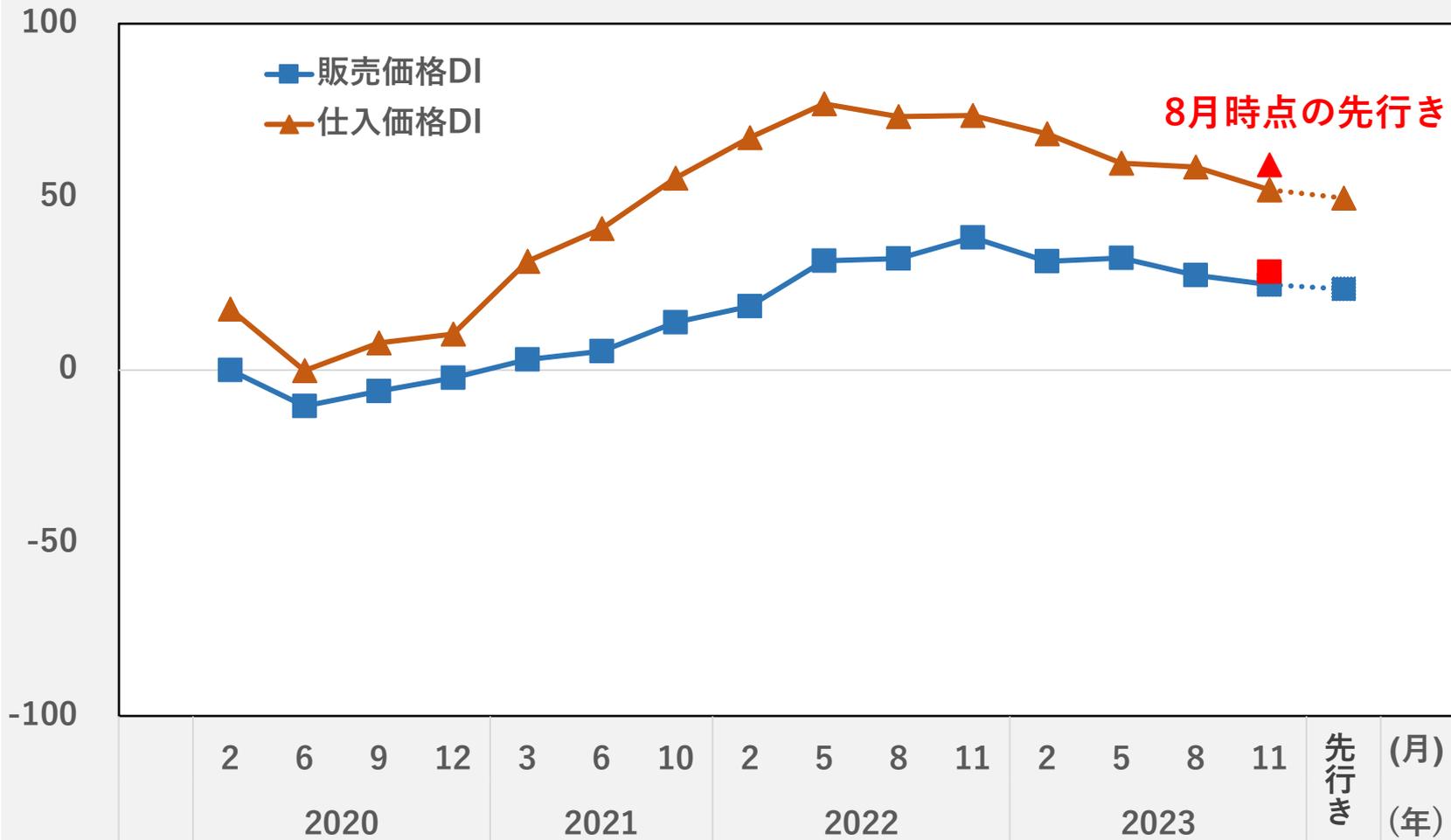
(参考) 第1回調査からの長期時系列推移 (売上、資金繰り)

売上DI・資金繰りDI (全産業)



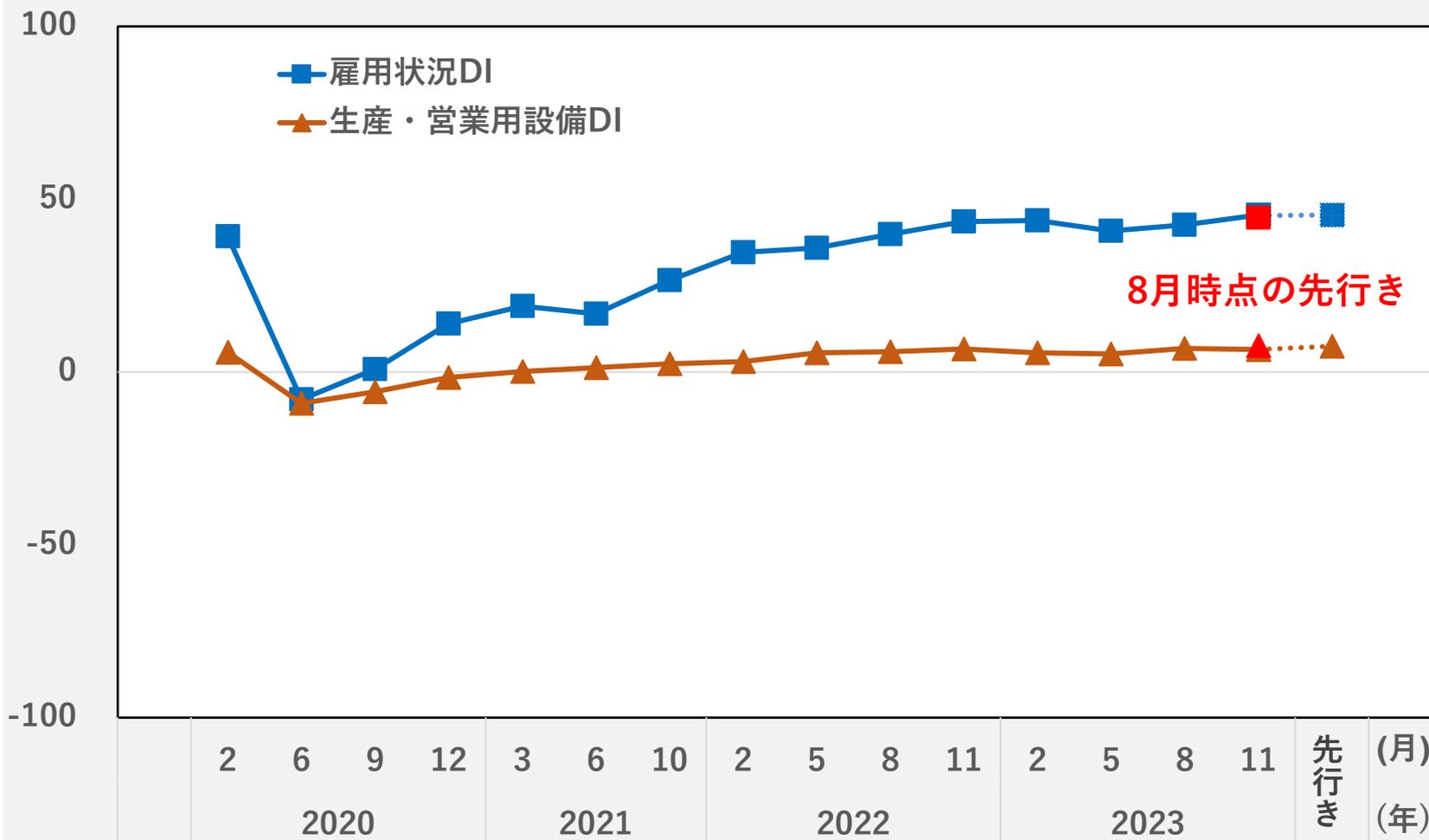
(参考) 第1回調査からの長期時系列推移 (販売価格、仕入価格)

販売価格DI・仕入価格DI (全産業)



(参考) 第1回調査からの長期時系列推移 (雇用状況、生産・営業用設備)

雇用状況DI、生産・営業用設備DI (全産業)





人を思う。未来を思う。

商工中金